

～市民みんなで安心していきいきと暮らしているまちの実現に向けて～



地域協働型

## 災害ボランティアセンター 設置・運営訓練



### 災害ボランティアセンターとは…

台風などによる風水害や地震、津波などの災害が発生した場合、被災地では災害ボランティアによる支援活動が大きな力を発揮します。

災害発生時には、被災地に災害ボランティアセンターが設置され、現地で必要とされる支援の確認や整理を行うとともに、支援活動を希望する方の受け入れ、マッチング活動を行います。

訓練の様子を  
高校生ボランティア  
わくワーク✿が  
取材しました!  
(2,3ページ)



## 海南高校発表

海南高校2年生の「防災班(総合的な探求の時間)」の皆さまも訓練に参加し、これまで学んできた防災について、発表してくれました。

## 災害ボランティア募集中

海南省社会福祉協議会では、災害発生時に自発的な意思でボランティア活動をする個人の方が、災害現場において迅速かつ効果的に救援活動を行えるよう、事前に災害ボランティア登録を行っています。

また、登録された方には研修や今回のような訓練などの案内もお送りいたします。

### 登録条件

- 海南省内に在住、在勤、在学している方
- 登録しようとする年度の4月1日現在で満15歳以上の方  
※18歳未満(ただし学生の場合は18歳になる年度の末まで)の場合は保護者の承諾が必要です

### 登録方法

専用フォームに必要事項を入力してください。



▲専用フォーム

**地域  
協働型**

# 災害ボランティアセンター 設置・運営訓練

令和7年12月13日、海南保健福祉センターで地域協働型災害ボランティアセンター設置・運営訓練を実施しました。

当日の様子は、夏のボランティア体験をきっかけに結成した、高校生ボランティアグループ『わくワーク※』が取材しました！災害ボランティアセンターの流れに沿って紹介します！

## 1 ニーズ(支援依頼)の受付

被災された方から、困りごとや支援の相談を受け付けます。内容を丁寧に聴き取り、必要な支援を整理します。必要に応じて現地に赴き、状況を確認し、支援活動につなげます。



## 2 ボランティアの受付

事前申込名簿と来所した方の名前を照合します。名簿がない場合は、その場で二次元バーコードを読み込んで申込することもできます。確認後、名札を記入してもらい受付を完了します。



## 3 オリエンテーション

活動前に、災害状況やボランティア活動の流れを説明します。ボランティアが安全に活動するための注意点や心構えを伝えます。



## 参加者の声

### 知っていますか？ 「TKB」

TKBとはトイレ・キッチン・ベッドの略です。健康にとって優先度の高い順に並んでおり、これらを迅速に整備することで、被災地での健康を守ります。簡易トイレや災害時の非常食はホームセンター等でも購入でき、個人でも準備しておくことができるので、日頃からの備えが大切です。

**奥田恭久さん**

日本防災士会  
和歌山県支部  
事務局長



### 災害ボランティア 参加の想い

何かあった時に「助けてほしい人」は増える一方で、「助ける人」が減りつつあります。少しでも助ける側に回りたいとの気持ちで、毎年訓練に参加しています。2年前の豪雨災害でも災害が起つて初めて気づくことが数多くありました。訓練も同じで、やってみて気づくことがあるので、回数を重ねることが大切だと思います。

**神出佐奈江さん**

訓練参加者



### 高校生でもできること

今回の訓練にはスタッフ側として参加し、オリエンテーション・マッチング・活動報告班を担当し、災害ボランティアセンターの運営を体験しました。災害時には、避難所での配慮が必要な人の荷物運びや炊き出しの手伝い、子どもの遊び相手など、高校生の自分たちにもできるることはたくさんあると思います。実際に災害が起つたら、高校生の元気を活かした支援をしていきたいです。

**井上裕太さん**

海南高校 2年生  
防災班

### 地域協働の災ボラセンター

災害が起きたとき、被災された方は「助けて」と声を上げるだけでも大きな勇気がいります。そんなとき、地域のことを知っている顔なじみの人がそばにいることが、何よりの支えになります。災害ボランティアセンターは社協だけでは動かせません。住民の皆さん、民生委員、NPO、企業など、地域の力が集まってこそ、被災者に寄り添った支援が可能になります。だからこそ、地域みんなで支える地域協働の災害ボランティアセンターが必要となります。

**福田悠人さん**

和歌山県  
災害ボランティア  
センター



